



## 高床式

軽井沢に位置する計画敷地は、ほとんどすべてである。

美しい景観、美しい形の樹木、青々とした芝生、どれも申し分ない。  
ただひとつないとしたら、敷地固有の方向性・サーキュレーション、  
つまりコンテキストだ。

ならば、それを逆手にとってやろう。方向性のない建築、サーキュレーションを強要しない建築を。

この建築が、この敷地のコンテキストを生む装置となればなおよい。

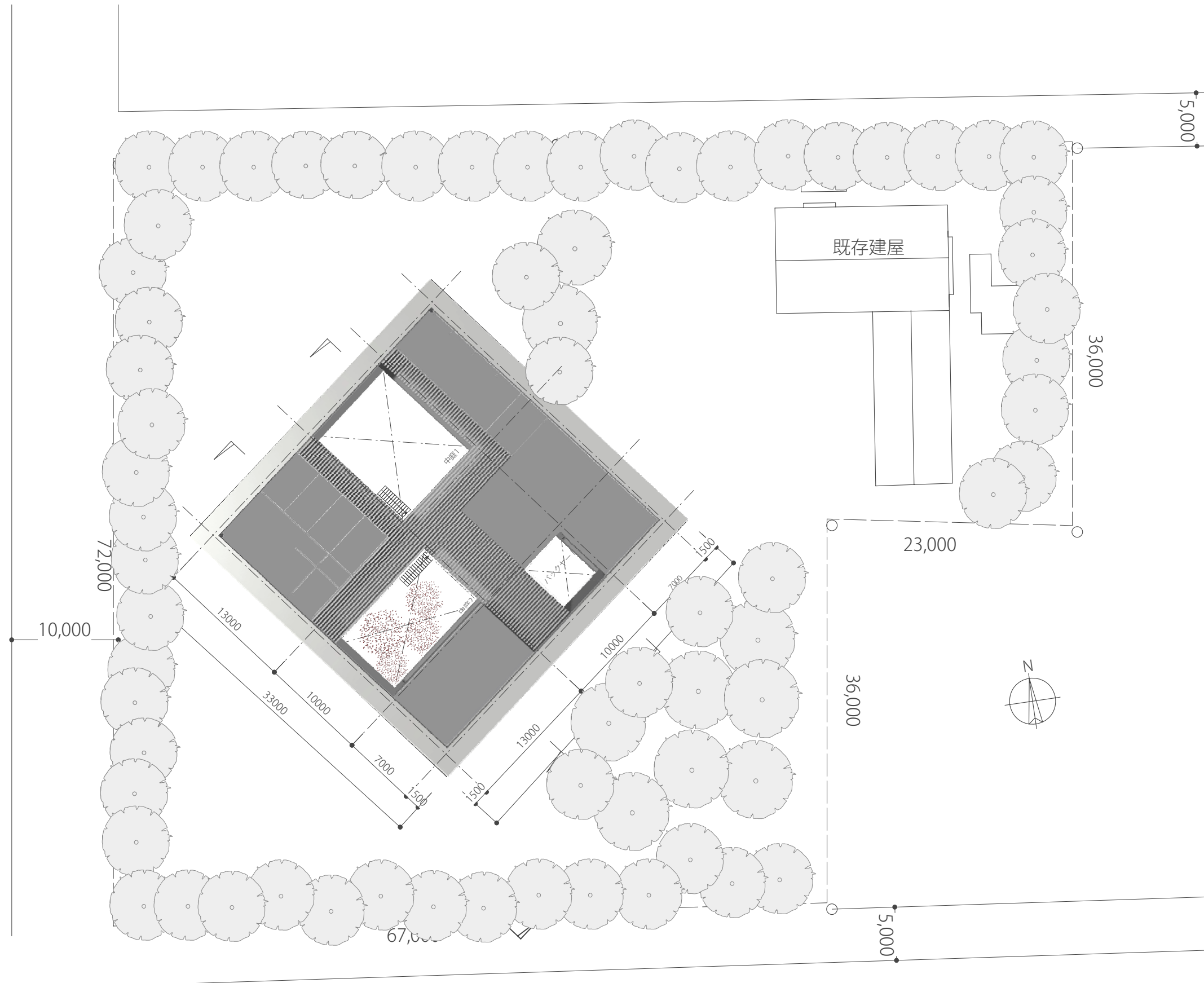
## 配置計画

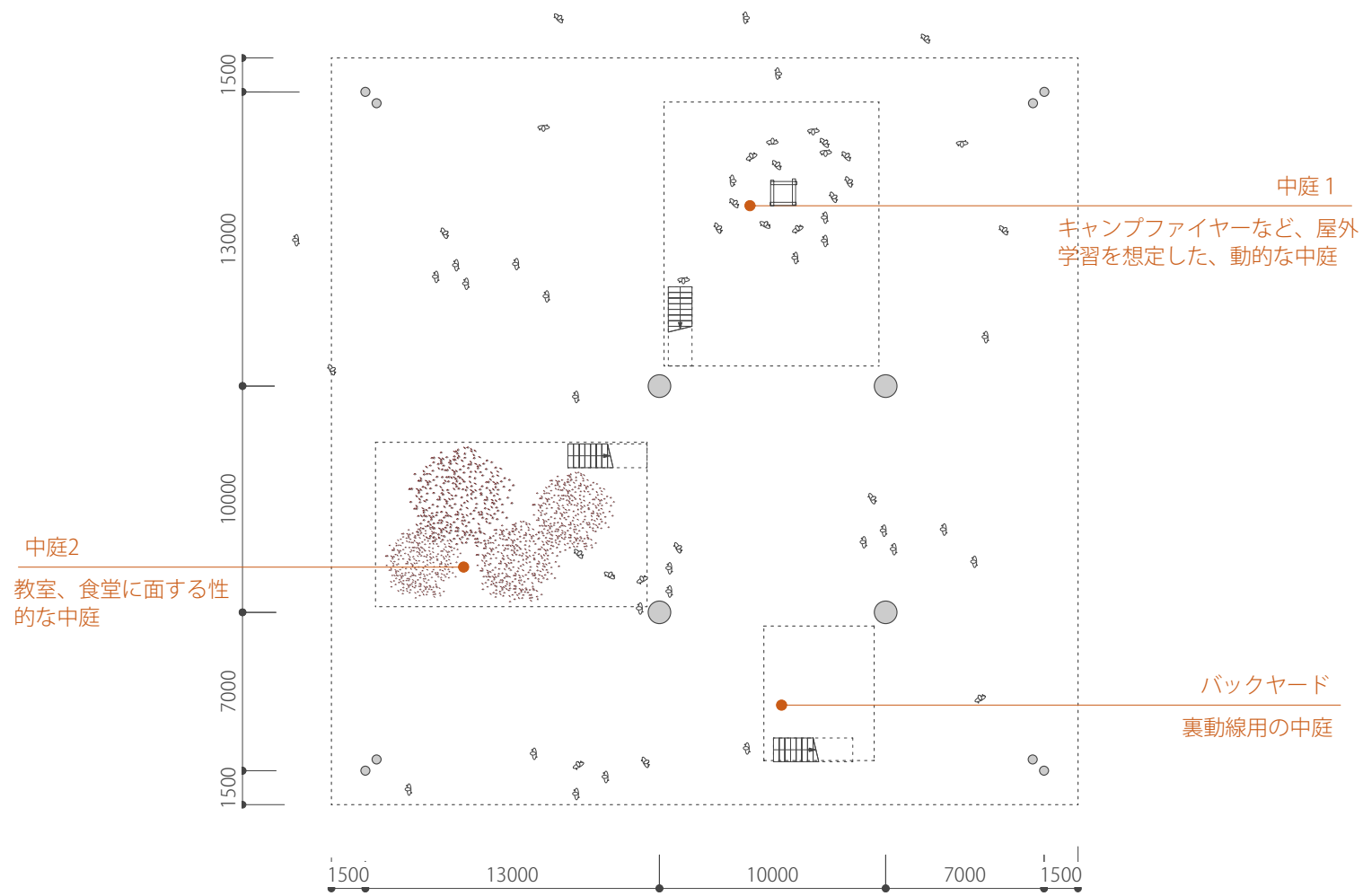


許容建築面積 $5679.0(\text{m}^2) \times 20(\%) = 1135.8(\text{m}^2)$   
 $1135.8(\text{m}^2) \rightarrow 33\text{m} \times 33\text{m}$  の正方形

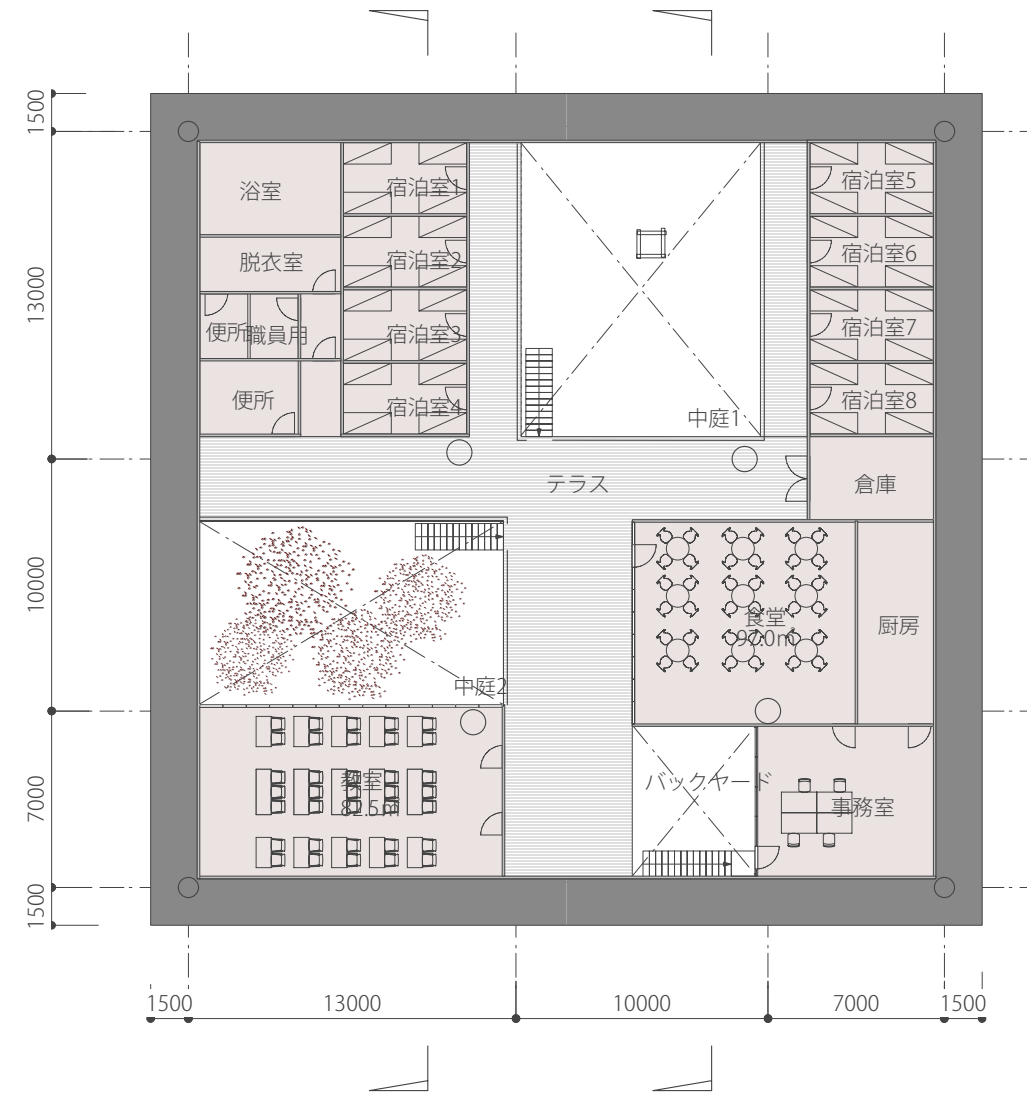
方向性の弱い敷地のため、建物形状も同様な、方向性の弱い正方形とした。許容建築面積から、33m平方の正方形を導いた。

敷地の形状に対し、45度ふった配置とすることで、性格の異なる、二つの広場を生み出した。





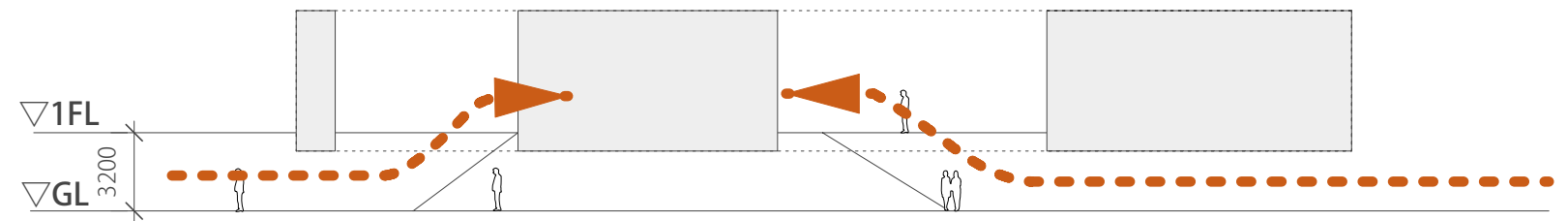
GL Plan 1:300



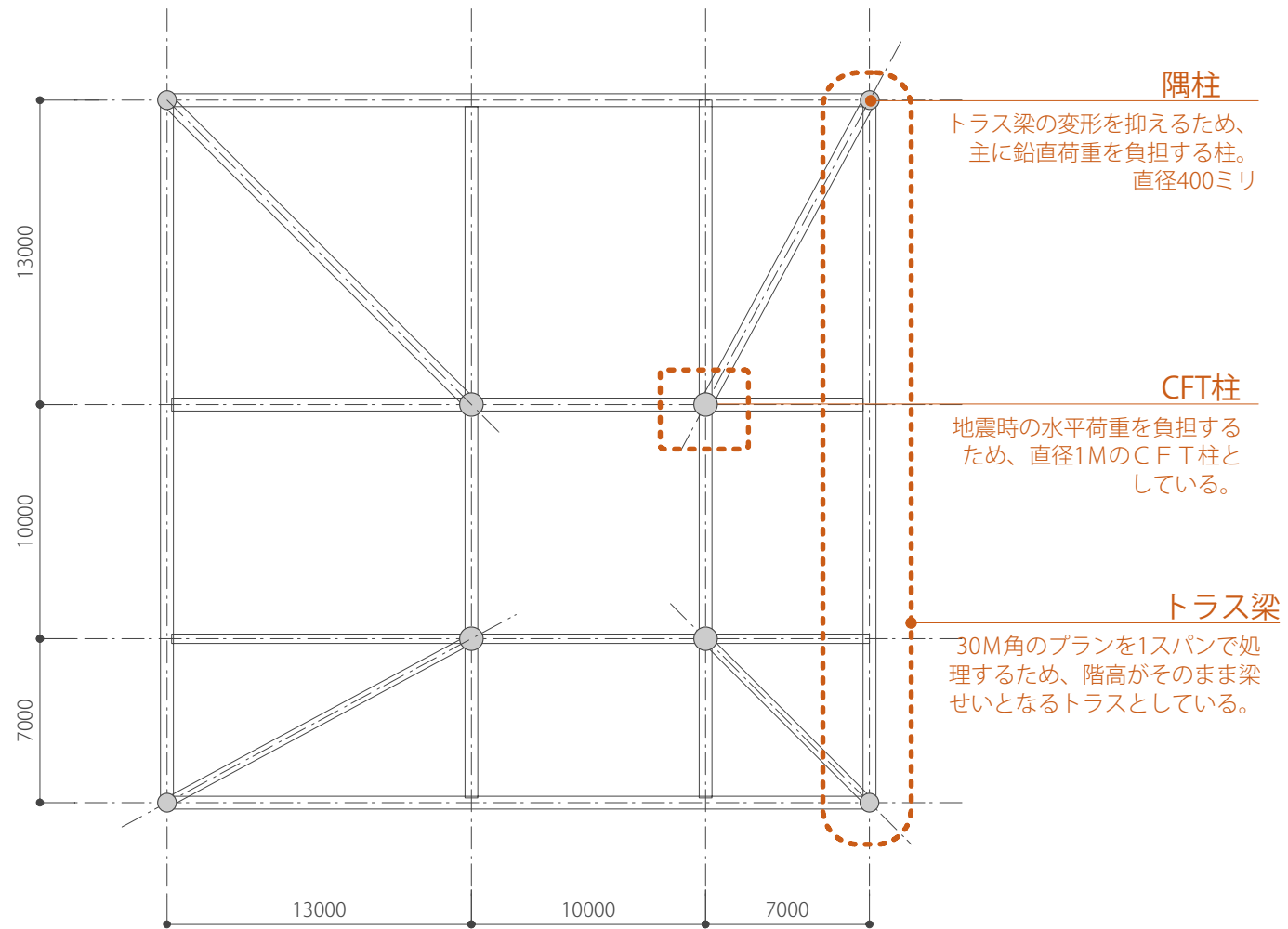
1FL Plan 1:300

計画レベル

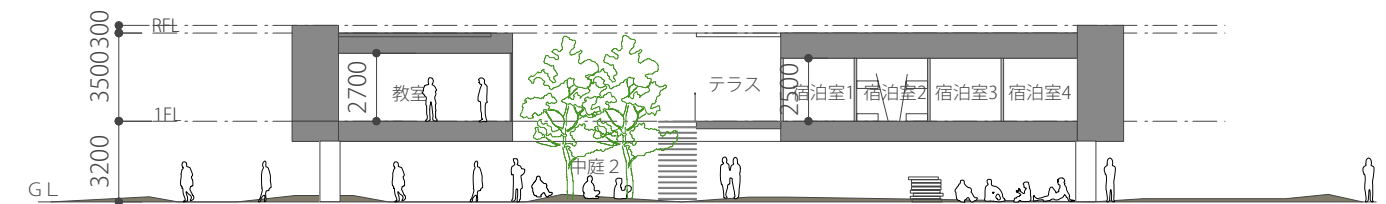
既存の土地のGLから+3200のレベルを1FLと設定。  
 こうすることで、建物ピロティ下の部分は、従来どおりの広場として利用できる。  
 建物利用者は、利用する部屋に近接する階段をのぼり1FLへとたどり着く。



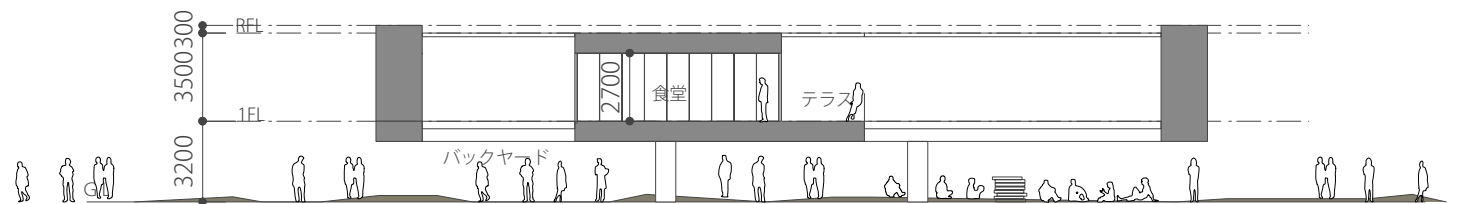
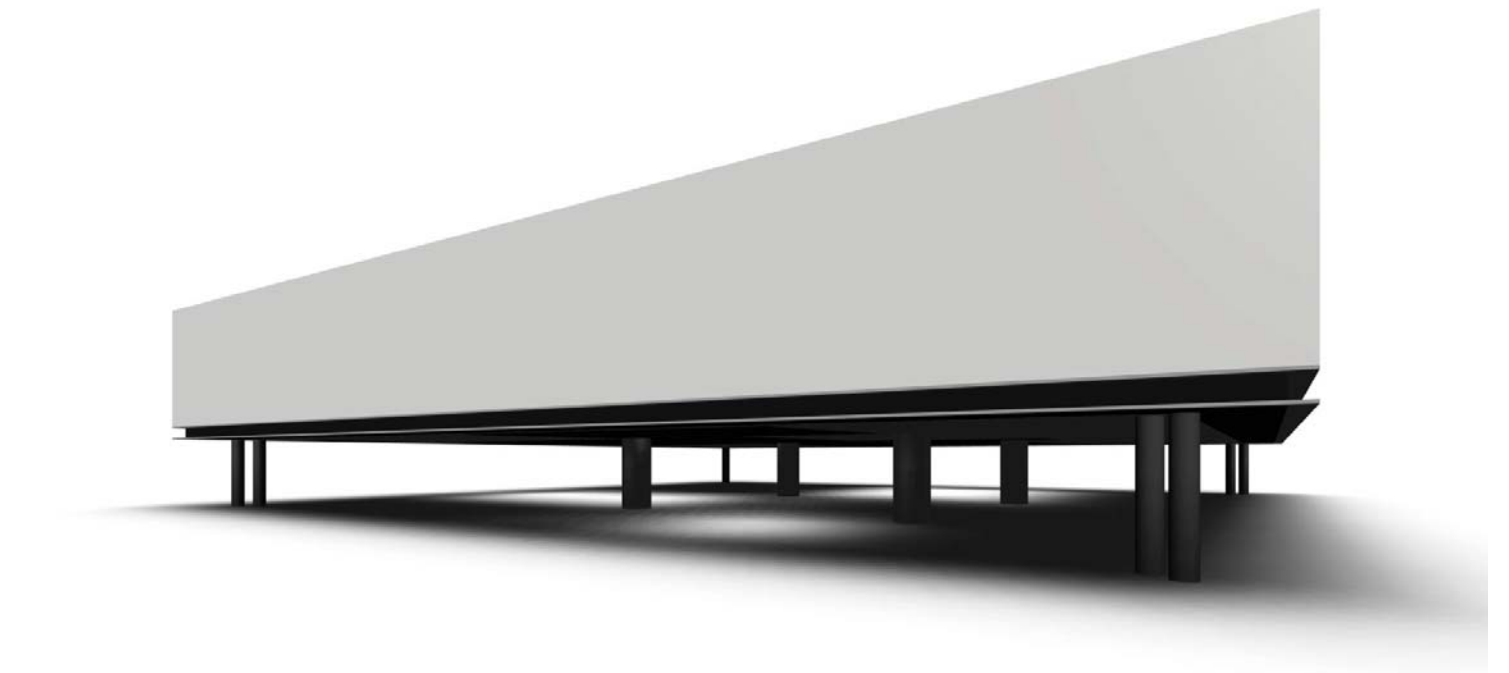
Level Diagram



Beam Plan 1:300



A-A Section 1:300



B-B Section 1:300